



# 小会議室改革に 乗り出そう

MeetUp 2とRally Bar Huddleで、会議室スペースを効果的にアップグレードしましょう。

logicool

ハドルスペース、小会議室、フォーカスルームなど、これら小規模なスペースが、成功に向けた秘密兵器になる可能性があります。

働き方のあり方が進化し続けるにつれ、これらの見落とされがちな小規模なスペースが、急速にコラボレーションと生産性向上のために不可欠な拠点となりつつあります。



調査によると、組織の40%が、現在オフィス内の会議スペースを増加させています。しかしそれ以上に重要なことは、今後5年間<sup>2</sup>で従来の会議室から小規模なスペースに焦点を移す予定であるという事実です。



の組織が会議スペースの数を増加させています

この動きの背景には、IT部門の意思決定者の93%が、コラボレーションソリューションへの投資によって、リモートからの参加者と会議室での参加者双方のチームワークと生産性が高まると考えていることが挙げられます<sup>3</sup>。見落とされていた小会議室を含め、既存のスペースをビデオ対応にすれば、便利かつ効果的にチームワークと生産性を高められるだけでなく、企業とその従業員もさらにメリットが得られます。

研究によると、職務をサポートするテクノロジーを従業員に提供した場合、従業員の関与度が230%高くなるとの結果が出ています<sup>4</sup>。また、3年以上職務にとどまる可能性が85%高くなることも証明されています。そして、このような従業員の利点は、会議室の内外に存在します。従業員は、ビデオ対応のコラボレーションソリューションによって、プロジェクトをより素早く完了できるとそのメリットを力説しています。同時に、ビデオを通じたコミュニケーションによって、リモートで作業している人々がつながり、信頼関係を築き、関与を高めることができます。

しかし、2022年には、全体の84%の会議室でリモートからの参加者が1人以上参加しているのに、今日ビデオ対応となっている小会議室は15%未満にすぎません<sup>5</sup>。

これは、あまり使用されていないスペースを、従業員のニーズを満たし、生産性を高め、幅広いビジネスメリットとROIを実現する、機動的なビデオ対応の環境に変えるべき明確な機会を示しています。それでは、小会議室を効果的にビデオ対応にするための障壁は何でしょうか？また、どうすれば解決できるのでしょうか？

本ホワイトペーパーでは、小会議室をアップグレードする際にリーダーが直面する主な課題を探り、それらを克服するためのソリューションを紹介します。また、小規模スペースに最適なソリューションを効果的に選択、導入、管理するための指針を提供し、従業員のニーズをよりの確に満たし、業績を向上させることを目的としています。

# 小会議室のビデオ対応化が進まない理由は何でしょうか？

設備の整った会議室の必要性は広く認識されており、小規模なスペースを活用する傾向が高まっていることも無視できない事実です。しかし多くの場合、従業員と企業の要件と、利用可能な最新の会議エリアの状況にはしばしば大きな隔たりが存在します。組織内の小会議室全体にコラボレーションソリューションを展開する際に最も一般的な障壁となるものが、いくつかあります。

## 導入の際の代償

フロスト&サリバンの調査によると、企業は2023年にビデオ対応の会議室に対して慎重な姿勢を示したとのこと<sup>6</sup>。大規模な会議室にビデオテクノロジーを導入したところ、従業員が突如として在宅勤務とオフィス勤務の併用を好むようになった企業は、小規模なスペースへの投資にはより慎重になっても不思議ではありません。

マクロ経済条件、地政学的不安定性、および予算面の制約も投資に影響を及ぼしました。また、対面のやり取りに使用する小会議室は、本格的なビデオコラボレーションソリューションには適さないという誤った認識も投資に影響しました。しかし、時代は変わりました。小規模会議スペース専用に設計され、費用対効果が高く、導入が簡単な一体型のビデオソリューションが実際に登場しています。

今や会議の27%は臨時の会議となっています<sup>7</sup>。これらのデバイスを導入すれば、今日の従業員やより柔軟な勤務形態に求められる柔軟なコラボレーション環境を、費用対効果はるかに高い方法で実現することができます。

## 連携に関する不満

コラボレーションソリューションが既存のテクノロジーと互換性があるかどうかも懸念事項の1つです。組織は、小会議室用に選択したソリューションが、既存のビデオ会議プラットフォームと問題なく連携するかを知りたいと考えています。

また、連携、デバイス管理、サポートチケットの面で、IT部門の頭を悩ませることのない機器を必要としています。費用のかかる投資の失敗を避けるには、使いやすく、導入や管理が簡単で、主要なビデオ会議ソフトウェアと互換性がある（または認定済みの）デバイスを見つけることが重要です。

## BYOD対応にすべきかどうか

一貫性のある会議の実現には、さまざまな問題生じます。特に、導入方法を選択する際に顕著です。小会議室ソリューションでは、BYOD（Bring Your Own Device：個人所有の機器を持ち込む）体験を提供できます。この場合、従業員はノートPCを接続して会議室内で会議を主催したり、専用の会議室用PC経由で接続したり、またはAndroidベースのアプローチで接続できます。

Androidベースのデバイスであれば、追加のハードウェアは一切必要ありません。会議室ソリューションに搭載されたコンピューターで、会議を主催したり、参加できます。これにおいてはコストも重要です。企業は、単体の会議室用デバイスのシンプルさと、会議室専用PCが含まれるパッケージ製品のどちらがニーズを満たすかどうかを判断する必要があります。また、従業員のニーズも考慮する必要があります。

従業員が他の会議室でノートPC経由で会議に接続することに慣れている場合、BYODソリューションがこれまで通り、なじみのある体験を提供するはずですが、これは、別のコラボレーションソフトウェアを使って接続できる柔軟性も備えています。同様に、従業員が指定されたビデオプラットフォームを使用してワンタッチで会議を開始する場合、Androidベースのデバイスまたは会議室用PCを使用すると、混乱を招くことが少なくなります。コスト、柔軟性、利便性のバランスを取ることが重要です。

## 今後の懸念

一貫性の問題と密接に関係しているのは、特定のテクノロジーまたは会議の接続方法に「縛られる」ことへの懸念です。組織は、変化するビジネスまたは従業員のニーズに対応するために、他の会議スペースとは異なるタイプのシステムを導入することになるのを懸念するかもしれません。

また、選択した会議用ソフトウェアの認定を受けていないデバイスを選択した場合、そのソフトウェアの最新機能を利用できないのではないかと懸念するかもしれません。最後に、コラボレーションソリューションの物理的な柔軟性に関しても、多くの懸念が存在します。それらは、長期にわたって所定の場所に固定されているのでしょうか、または小会議室が別の目的で必要になった場合は、別の場所に移動できるのでしょうか？

急速に変化していく仕事の世界では、将来性のあるテクノロジーは必須であり、小会議室の価値を高める上で極めて重要です。このため組織は、持ち運びが簡単で、素早くセットアップでき、会議室間を移動できるデバイスだけでなく、複数の導入方法を提供するシステムを選ぶ必要があります。

しかし、課題解決がすべてというわけではありません。小会議室をビデオ対応にすることを検討し始める際には、潜在的なROIにも焦点を当て、評価することが重要です。

ソリューションの評価を始める時は、次のことを問いかけるべきです。

- 小会議室に投資することで、現状では得られていない、どのようなメリットが従業員や企業にもたらされるでしょうか？
- AIが私たちの働き方を変革し続け、企業の支出優先事項<sup>3</sup>になる中、これらのソリューションでも、AIを活用した機能を利用できるのでしょうか？
- 選択したデバイスは、誰も取り残されない会議を実現するための機能や互換性のあるアクセサリーを通じて、リモートワークやハイブリッドワークで働く従業員のニーズを満たすことができるでしょうか？
- 会議室の使用状況の把握や障害の事前対応型アラートなど、より先進的な管理手法をIT部門が得られるでしょうか？
- 小会議室ソリューションへの投資により、組織はESG目標を達成できるようになるでしょうか？



小会議室をビデオ対応にする際の潜在的な課題と利点を理解することで、組織固有のニーズを満たすのに必要な機能を備えたソリューションをよりの確に見極めることができます。

## 小会議室、大きなアイデア。

コンパクトなコラボレーション用に設計されたロジクールソリューションをご紹介します。

ロジクールのチームワークスペースソリューションは、使いやすさ、拡張性、簡単なデバイス管理を兼ね備えた最高の会議品質を求める組織に長年にわたり選ばれてきました。より小型化された製品でも同じメリットが得られます。

MeetUp 2とRally Bar Huddleによって、会議室での会議と遜色のない品質を、小規模スペースでも実現できます。インテリジェントで高品質なオーディオとビデオ、一般的なコラボレーションプラットフォームとの幅広い互換性と認定、シームレスなセットアップが可能のため、小会議室を簡単にビデオ対応にすることができます。

お客様の組織が従業員の働き方や会議のあり方を見直すにあたり、この2つのデバイスは、さまざまな会議室やビジネスニーズに適した独自の機能、メリット、価格帯を提供します。小会議室をビデオ対応にする場合でも、機器をアップグレードする場合でも、MeetUp 2とRally Bar Huddleは、小規模オフィススペースを刷新するのに最適な柔軟性の高いソリューションです。

従業員に最高の会議体験を提供し、IT部門にリモート監視と管理機能を提供することから、ビジネスに柔軟性と将来性をもたらすことまで、ロジクールは小会議室向けのあらゆるニーズに対応します。



## MeetUp 2

評価の高いMeetUpをアップグレードしたMeetUp 2は、小会議室、ハドルスペース、およびフォーカスルーム向けに設計されています。コンパクトな一体型の会議用カメラで、USB接続の会議室にインテリジェントなビデオ/オーディオ体験を提供します。

### 機能

- ② 2種類の導入タイプ：MeetUp 2は、会議室内のPCまたはBYODモードでノートPCに接続して使用できます。アクティブUSBケーブル1本でBYOD接続が可能なオプションにより、セットアップとエンドユーザー体験がさらに簡単になります。
- ② 簡単なセットアップ：MeetUp 2のコンパクトなデザインは、小会議室、ハドルルームなどのコンパクトなスペースに最適です。小型サイズとすっきりした配線により、簡単に設置することができます。
- ② インテリジェントなビデオとオーディオ：RightSight 2およびRightSound 2はAIアルゴリズムを活用して、会議室内の参加者のインテリジェントな検出や自動フレーミング、クリアな音声などを実現します。
- ② マルチマウント：付属のマルチマウントで、MeetUp 2をディスプレイ、テーブル、壁面に取り付けることができ、柔軟に簡単に設置することができます。
- ② 大規模導入に適した価格帯：MeetUp 2は、手頃な価格でさまざまな機能を提供し、あらゆる規模の企業に利益をもたらします。

### メリット

- ② 柔軟な導入方法：2種類の導入タイプにより、企業とその従業員のニーズにMeetUp 2を素早く適応させることができます。
- ② 使い慣れたツールを使用：MeetUp 2は、すでにお使いの主要なビデオコラボレーションプラットフォームで動作します。Microsoft TeamsとZoomの認定を受けており、Google Meetにも対応しています。
- ② 可視性と管理：ロジクールSyncにより、MeetUp 2やその他の対応デバイスの状態を監視したり、更新プログラムを適用したり、リモートで設定を変更したりすることができます。
- ② サステナビリティへの取り組みを支援：MeetUp 2のプラスチック部分には、認定済みのポストコンシューマリーサイクル（PCR）プラスチックが最大62%含まれており、環境目標の達成を支援します。



## Rally Bar Huddle

Rally Bar Huddleは、小規模なスペースやハドルスペース向けに設計された、プレミア一体型ビデオバーです。Rally Bar Huddleの最大の特長は、AI駆動のきわめてクリアなビデオとオーディオを提供できることで、小会議室の会議体験を向上させたい企業の選択肢として選ばれています。

### 機能

- ③ 3つの導入オプション：Rally Bar Huddleは、Androidベースのデバイスとして動作するほか、USBモードでPCに接続して使用したり、BYODモードでノートPCに接続して使用したりできます。
- ③ 簡単セットアップ：一体型でスリムなデザインとシンプルな配線を備えたRally Bar Huddleは、即座に導入でき、すぐに使い始めることができます。
- ③ 強化されたビデオとオーディオ：Rally Bar Huddleは、高度なAI機能を搭載したUltra-HD 4Kビデオ、パワフルなスピーカー、ビームフォーミングマイクを備えています。
- ③ 柔軟な設置方法：Rally Bar Huddleは、付属のマルチマウントを使用してテーブル上、壁面、会議室のディスプレイの下に設置することができます。
- ③ 交換可能なカバー：デフォルトのグラフィイトカバーを、Easy Clean Cover、Off-White Fabric Cover、Hecklerカスタムカバーに交換して、Rally Bar Huddleをカスタマイズできます。

### メリット

- ③ 柔軟な接続：従業員により一貫した会議室体験を提供するために、Rally Bar Huddleの導入方法を選択できます。
- ③ 既存の投資を活用：Rally Bar Huddleは、Microsoft Teams、Zoom、Google Meetの認定を受けており、すでにお使いの主要なビデオコラボレーションプラットフォームと連携できます。
- ③ リモート監視と管理：ロジクールSyncを使用すれば、Rally Bar Huddleや他の対応デバイスのステータスの監視、更新プログラムの適用、設定の変更をリモートで実行できます。
- ③ サステナビリティ目標の達成：ポストコンシューマリサイクル（PCR）プラスチックを42%使用して作られたプラスチック部品を搭載したデバイスを選択することで、環境目標を迅速に達成できます。

# AI駆動の体験

AIは今でこそ社会的に注目を集めていますが、ロジクールは長年にわたり、ユーザー体験を向上させるために、AI駆動の機能をハードウェアとソフトウェアに実装してきました。ロジクールのAI搭載テクノロジーが、IT部門の問題解決の負担を軽減しながら、すべての会議をより効率的にし、参加者が積極的に参加できる誰も取り残されない会議を実現する方法を詳しくご紹介します。



## RightSight 2

RightSight 2のアルゴリズムは、会議室内の会議参加者をどうフレーム内に収め、表示されるかを改善します。これにより、個々の参加者の姿がより適切に表示され、個人対個人のやり取りがよりスムーズになり、参加者間の公平性を高めます。光補正と画質の向上により、さまざまな環境や時間帯でも参加者をクリアに表示できるため、会議室のサポートを求める必要がありません。

RightSight 2はまた、4種類の表示モードが利用可能です。

- **グループビュー**：会議室内の参加者全員を自動的にフレーム内に収め、1つのグループとして全体表示します。
- **グリッドビュー**：会議室内の参加者の姿を個別のフレームに分割して表示します。
- **スピーカービュー**：会議室内の現在の話者を識別して、フレーム内に収めます。会議室全体の映像も同時に表示することもできます。
- **カメラゾーン**：必要に応じてカメラが捉えるフレームの範囲を手動で調整できます。



## RightSound 2

RightSound 2のアルゴリズムは、ノイズやエコーを減らしつつ、音声の明瞭度を高めることで、より高品質なオーディオによる会議を実現します。高度な音声認識アルゴリズムは、声が小さい話者の音量を自動的に上げるため、すべての声が相手に伝わります。会議室全体でクリアなオーディオが実現するため、IT部門が受け取るオーディオ干渉や音量の問題に関連するサポート依頼を減らすことができます。

会議でクリアな音声を実現するRightSound 2の機能。

- **AIノイズ抑制**：背景雑音を除去して、クリアで中断のない会話を実現。
- **AIエコー抑制**：遮音性の低い会議室で頻繁に発生するエコーを低減します。
- **音声イコライゼーション**：マイクからの距離の違いにより生じる、小さい声と大きい声を自動レベリングします。

# 会議室管理が簡単に

複数の会議室とデバイスがある場合は、それらを最新の状態で安全に維持し、常に万全の状態でするように努める必要があります。ロジクールSyncを通して、IT部門はシステムの構成、デバイスの監視と管理、更新の適用と管理をリモートで実行できます。これにより、従業員が必要なときに確実に会議室を使用でき、会議室利用においてIT部門の支援を得る時間を削減できます。

## 優れたサービス

大規模な導入、または高度な要件がある組織の場合、ロジクールSyncとロジクールサービスプランを組み合わせることで、さらに優れた管理と可視性でITチームを強化します。

ロジクールのサービスは、3つのティアでご利用いただけます。

### Basic

MeetUp 2またはRally Bar Huddleが設置された会議室は、常にBasicサービスプランの対象になります。これには、ロジクールSyncによるデバイス管理と標準保証が含まれます。

### Essential

Essentialサービスプランは、Basicプランのすべての機能に加えて、リモートUIアクセス、会議室の予約や会議室の使用状況に関するインサイトなどのスペース管理機能を含む追加機能をご利用いただけます。Essentialプランでは、機器の故障が発生した場合に自動アラートを電子メールで送信したり、ServiceNow連携を介して既存のITワークフローで通知することも可能です。

### Select

Selectはロジクールのプレミアムサービスで、Essentialプランの高度な機能と追加メリットが含まれます。これには、1時間以内に対応するエキスパートによるサポート、専任サービスマネージャー\*による個人的なサポート、機器の交換の翌営業日の配送が含まれます。\*\*

\*50室以上の会議室用のライセンスまたはEnterpriseプランをご購入のお客様が対象です。

\*\*ご利用にならない国と地域があります。





## どの小会議室ソリューションが貴社のビジネスに適していますか？

特定の導入方法、簡単な接続性、タッチコントローラを備えた包括的な会議室ソリューション、可能な限り最高のビデオとオーディオなど、MeetUp 2とRally Bar Huddleはあらゆるニーズに対応します。貴社ビジネスのニーズに最適なデバイスを見つけてください。



	MeetUp 2	Rally Bar Huddle
会議室タイプ	ハドルルーム、小会議室	ハドルルーム、小会議室
Androidベースモード	なし	あり
単一ケーブルによるBYOD接続	あり（アクティブUSBケーブル使用）	なし
BYODモード	あり	あり
PCモード	あり	あり
プライバシーシャッター	あり、手動	あり、自動
AI駆動のカメラおよびオーディオ	あり	あり
Sync管理	あり	あり
同梱マウント	マルチマウント	マルチマウント
アクセサリ	アクティブUSBケーブル TVマウント（MeetUp用）	TVマウント（ビデオバー用）
交換可能なカバー	なし	Easy Clean Cover Off-White Fabric Cover
サステナビリティ	PCRプラスチック、FSC™認証パッケージ、カーボンニュートラル	PCRプラスチック、FSC™認証パッケージ、カーボンニュートラル
<b>価格</b>	<b>\$899</b>	<b>\$1,699</b>

# 今すぐ将来に備える

フロスト&サリバンのグローバルなビデオ会議デバイス市場状況レポートでは、2025年までにビデオ会議デバイスの使用台数が6倍に増えるという結果が出ています。<sup>9</sup>

ビデオ会議用ハードウェアとサービスプロバイダーは、ハイブリッド会議体験を絶えず向上させています。一方で、旧タイプのデバイスや単体のノートPC用カメラは、時代に取り残されつつあります。

貴社のビジネスを確実に将来に向けて備えるには、これらのテクノロジーの技術革新や最新機能を常に把握しておくことが重要です。



MeetUp 2とRally Bar Huddleにより、組織は以下のことが可能になります。

- 社内のビデオ対応会議室の数を効率的に拡張できます。
- 必要に応じて会議室間でデバイスを素早く移動できます。
- お使いのコラボレーションプラットフォームに追加された新機能と更新を活用できます。
- 必要に応じて、従業員の会議への接続方法の変更に適応できます。
- 信頼できる使用データに基づいて、会議室に関する方針を決定できます。

組織によっては、会議室や大規模な会議スペースという考え方から脱却できていないかもしれません。しかし、小会議室を導入すべき利点は明らかです。小会議室はコスト効率が高く、生産性が上がり、柔軟性が高く、拡張性も備えています。また、サステナビリティを含めたより広範なビジネス目標の達成にも貢献し、働く場所がオフィスの内外かを問わず、従業員の体験を向上させます。

MeetUp 2とRally Bar Huddleを導入すれば、小会議スペースを変革し、従業員のニーズを満たし、コラボレーションを強化することができる、未来のワークスペース環境を今すぐ整えることができます。

MeetUp 2およびRally Bar Huddleの詳細については、ぜひ当社チームにご連絡ください。

1. 「2024 UCC Buyers Perspectives (2024年UCC購買担当者の視点)」、フロスト&サリバン、2024年 2. 「Bringing Intelligent Collaboration to Small Spaces without Compromise (妥協のないインテリジェントなコラボレーションを小規模スペースにもたらす)」、フロスト&サリバン、2024年 3. 「Modernizing the Employee Experience:Unlocking Engagement and Productivity with Intelligent Collaboration Solutions (従業員体験のモダナイズ:インテリジェントなコラボレーションソリューションによる関与と生産性を解放)」、フロスト&サリバン、2024年 4. 「Architecting a World-Class Digital Employee Experience (ワールドクラスのデジタル従業員体験を構築する)」、Forbes、2024年 5. 「A First Look at Logitech Rally Bar Huddle (ロジクールRally Bar Huddleのファーストロック)」、Wainhouse Research、2023年 6. 「State of the Global Video Conferencing Devices Market (世界のビデオ会議デバイス市場の現状)」、フロスト&サリバン、2024年2月7. 「Occupancy Intelligence Index Report (占有率インテリジェンスレポート)」、VergeSense、2023年第3四半期 8. 「Enhancing Employee Experience with Logitech AI-Enabled Features (ロジクールのAI対応機能で従業員体験を改善)」、The Futurum Group、2024年 9.フロスト&サリバン

logicool for business

購入前のお問い合わせ：  
株式会社ロジクール  
<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/business/contact-b2b.html>

購入後のお問い合わせ：  
株式会社ロジクール  
カスタマーリレーションセンター  
<https://prosupport.logi.com/>

©2024 Logitech, Logicool.株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。ロジクール、Logicool、ロジクールロゴは、米国およびその他の国における、Logitech Europe S.A.および/またはその関連会社の商標です。Google MeetはGoogle LLCの商標です。Microsoft TeamsはMicrosoft Corporationの商標です。ZoomはZoom Video Communications, Inc.の商標です。その他のサードパーティ商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に含まれる製品、価格設定および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2024年10月

logicool